

環境振動設計指針策定 WG 2016 年度第 1 回 議事録 (案)

A. 日 時 2016 年 4 月 20 日 水曜日 17:30～19:30

B. 場 所 建築学会 B1 会議室

C. 出席者 濱本主査 他 1 2 名

D. 提出資料 (提出委員名)

No. 1-1 対象とする振動・環境振動設計・WG 体制 (濱本主査)

No. 1-2 「評価指針」の内容について

E. 議事内容

1. 環境振動設計指針策定 WG について (濱本主査, 資料 No. 1-1)

○新メンバーの紹介, 出席者全員の自己紹介が行われた.

- ・大成建設の相原氏, レトロフィットジャパン協会の崔氏, 鹿島建設の鈴木氏の 3 名に加わって頂いた. 相原氏には風関係, 崔氏には振動計測の作業を担当して頂く. 鈴木氏には風関係を中心に全体的な方向性について助言頂く.

○WG の設置目的と活動計画が説明された.

- ・評価と設計が一体となった従来の「居住性能評価指針」を, 「評価指針」と「設計指針」に分離して改定することとなったため, 「設計指針」を策定し, 「評価指針」とほぼ同時期に出版するための作業を行う.
- ・WG 設置期間は 2016 年 4 月からの 2 年間. 初年度は「床振動」, 「交通振動」, 「自然外力」の 3 つの SWG に分かれてそれぞれ作業を行い, WG にて全体の調整を行う.
- ・各 SWG の担当は下記の通り (下線は幹事).
 - a) 床振動 SWG : 佐伯, 片岡, 吉松
 - b) 交通振動 SWG : 上明戸, 小島, 東田
 - c) 自然外力 SWG : 原田, 相原, 小田島, 西川

2. 「評価指針」の内容紹介 (資料 No. 1-2)

○新評価指針の概要が紹介された.

- ・指針の内容は, 「定常的な振動」と「非定常な振動」に分けて記載. それぞれに鉛直振動と水平振動がある.
- ・非定常な振動に対しては, 鉛直振動に関しては継続時間による低減量を付加する評価方法を取り入れる予定である. 一方, 水平振動に関しては非定常振動用の等評価曲線を 1 種類提示することを考えている.
- ・現状では鉛直と水平で足並みがそろっていないところがあるため, 同じ枠組みに基づいた性能値の設定を目指しさらなる検討を重ねる.

3. 「設計指針」について（濱本主査，資料 No. 1-1）

- 対象とする振動は 2004 年版の居住性能評価指針と同じとする。
 - ・荷重(外力)は床振動では歩行・走行・跳躍等，建物振動では交通振動や風等とする。
 - ・建物用途はオフィスと集合住宅とする。学校はオフィス，病院やホテルは集合住宅に含まれると考える。
 - ・構造種別は S 造または RC 造とする。ただし，中低層の木造建築も視野に入れる。
- 居住性能マトリクスに基づく性能設計の体系化を目指す。
 - ・クライアントの要求性能を居住性能マトリクスに落とし込み，要求性能レベルを決定する。居住性能マトリクスの横軸は人体影響ランク，縦軸は入力レベルであり，両者の組み合わせで要求性能レベルが決定する。
 - ・居住性能マトリクスの横軸(人体影響ランク)は「評価指針」で与えられる。本 WG では横軸に対応した縦軸(入力レベル)を決定し，マトリクスを完成させる。
 - ・縦軸は床振動では加振力の大きさ，交通振動では敷地境界での地表面加速度，自然外力では再現期間などであり，振動源によって異なる。次回 WG までに各 SWG で検討し，原案を持ち寄る。
- 環境振動設計に関わる計測についても記載する。
 - ・崔委員を主担当とし，環境振動測定分析小委員会と連携を取りながら作業を進める。

4. その他

- 2016 年度大会 PD について
 - ・「建築物の振動に関する居住性能評価指針の改定にむけて」というタイトルで PD を開催する。開催日は大会 2 日目(8/25)で調整中。
 - ・設計指針策定の進捗状況について濱本主査より報告する。7 月初旬が原稿締め切りのため，6 月中には大枠を決定する必要がある。
- WG 開催予定〔次 回〕2016 年 5 月 24 日（火）17:30～19:30
〔次々回〕2016 年 6 月 22 日（水）17:30～19:30

以上